

会 議 録				
令和 6 年度第 3 回 生活支援事業協議体		日 時	令和 7 年 1 月 2 8 日（火） 1 4 時 0 0 分～1 6 時 0 0 分	場 所 小金井市役所第二庁舎 8 階 8 0 1 会議室
事務局		小金井市福祉保健部介護福祉課		
出席者	委 員	高良委員長（法政大学） 田部井委員（社会福祉協議会） 藤原委員（社会福祉協議会） 鈴木委員（民生委員児童委員協議会） 濱名委員（地域貢献活動をする者） 村越委員（町会・自治会） 第 2 層コーディネーター 松村委員（小金井きた地域包括支援センター） 金子委員（小金井ひがし地域包括支援センター） 河合委員（小金井みなみ地域包括支援センター） 久野委員（小金井にし地域包括支援センター）		
	事務局	第 1 層コーディネーター 菊地原（小金井市介護福祉課） 磯端、田村、木津（介護福祉課）		
傍聴の可否		◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
1 開会 2 議 題 （1） 報告事項 ① 前回協議体からの進捗状況 ② 令和 6 年度第 5 回から第 7 回生活支援連絡会報告 ③ 生活支援コーディネーター活動報告（8 月分～1 1 月分） ④ 令和 6 年度各地域包括支援センター活動報告 （2） 検討事項 高齢者の社会参加促進に向けた取り組みについて 3 その他 次回協議体の開催予定 4 閉会				
1 開会 協議体の開催にあたり資料の確認と、会議録作成にあたり全文を記録するものの、会議録の公表に当たっては、市民への分かりやすさを考慮し、発言者の発言内容ごとの要点記録とする旨を説明した。 2 議 題 （1） 報告事項 ① 前回協議体からの進捗状況 ② 令和 6 年度第 5 回から第 7 回生活支援連絡会報告				

③ 生活支援コーディネーター活動報告（８月分～１１月分）

④ 令和６年度各地域包括支援センター活動報告

(1) 報告事項の①から③までの概要を事務局より説明。

(高良委員長)

④令和６年度の各地域包括支援センター活動報告について、それぞれ順番に説明をいただきたい。きた包括松村委員から願います。

(松村委員)

今年度最後の報告として、簡単に今年度の活動の振り返りをさせていただく。

業務を担当して３年ほど経つ。最初の頃はとにかく自分から地域に入っていくようにしたが、今年度に入ってから、きた包括の取組をどこかで聞いてくれた方から直接、「自分たちの活動のサポートをして欲しい」、「連携先を紹介してほしい」といった相談を持ちかけられることが増えてきた。

具体例として、緑町を拠点に、人間の尊厳や共生をテーマに活動している劇団代表の方を地域の公民館館長や小金井在住の外国人支援グループにつなぐ、シニアのスマホ普及に取り組んでいる方の活動の幅を広げるために障害者の支援団体につなげる、能登の復興支援を個人で取り組んでいる編集者の方を小金井市内の防災イベントなどを主催している防災士につなぐなどの機会があった。またイベントの周知のため、個人的な繋がりがあるメディアの方にプレスリリースを代行提供するとか、地域のケアマネからの依頼で要介護の利用者の方の送迎つきボランティアの受入先を手配することもあった。

できるだけ、「人を紹介して終わり」ということではなく、連携してどんなことが出来そうかななどのアイデア出しの相談にも対応している。まだ相談を始めたばかりだが色々おもしろい企画があるので、その何れかが具体化したら楽しそうだなと、まだそんな段階である。

毎月開催している２層協議体の梶野町ないまぜの会についても、取組を聞いて新たに加わった事業所が今年度４軒ある。そのうち定期巡回サービス、グループホーム、薬局については、梶野町で新たに認知症カフェと一緒に立ち上げたという結果を出している。

今年度はFacebook、YoutubeといったSNSの活用にも取り組んだ。Facebookについては、自身のアカウントから発信したものを協力者に提供し、拡散していただく形を主に取っている。Youtubeの動画作成は、包括レベルではとても難しいので、まちおこし協会の「突然ニュース☆コガネイ」に取り上げてもらう形を取っている。今年は防災講座の周知を「突然ニュース☆コガネイ」にお願いしているが、視聴者数が伸びて、また講座の参加者に若い方が増えるなどの成果が出ている。

今年度最初からずっと防災についての取組を報告していたが、こちらもよい形で展開している。桜町自治会防災会に協力いただいた講座を既に２回開催したが、受講者の中の比較的若い方で地域の防災に関心の高い方数名にこちらからお声かけし、一緒に活動するために２層協議体を立ち上げている。今のところ４０代から７０代の女性９名で構成しており、既に１０月、１２月と２回の話し合いを持った。その２層協議体では、きた包括が主催する防災講座で今後どんなことをやるかななどの他、地域のカフェを一部貸切りにしての防災カフェ開催についても相談している。この防災カフェでは、参加者が多い講座だと十分に伝えられない情報を伝える、個別相談に対応するなど少しくローズな中でより関係を強化し、一緒に活動する仲間をさらに増やすことを目指している。今年４月からのスタートに向けて、今準備を進めている。皆さんと協働する中で、防災はやはり年代や普段の活動分野の違いを超えて連携できるテーマだなと、またそれぞれが違った立ち位置からアイデアを出し合うことで取組の幅を広げられるテーマだなと感じている。防災については来年度以降も取り組んでいく

い。

(高良委員長)

この報告について質問や意見、また補足等があればお願いしたい。よろしいか。

まさに地域包括支援センターが地域づくりのハブとなって色々な人達をつなげていきながら活動を活性化していく、またそれを促していくという実践ができていると思う。何といても、主体的に地域の方が活動できるように関与しているところが非常にいいと感じる。

防災についてはどこでも色々やっていると思うが、松村委員がおっしゃるように、共通のニーズは必ず世代を超えて興味関心を持てると思うので、防災はそういった意味でも色々な人をつなげていくためのテーマになると思う。引き続き対応していただきたい。

松村委員のほうで何か確認したいとか、他の方の意見を聞きたいことはあるか。

(松村委員)

特には。

(高良委員長)

それでは、続いてみなみの河合委員からお願いしたい。

(河合委員)

私は去年8月、9月頃から生活支援コーディネーターとして動くようになり、下半期の活動報告になるが、意識した活動としては大きく2つある。

1つは多世代への地域包括の周知で、9月に協議体が行われた週に「光の子フェスタ」という光明第二保育園で開催した親子や色々な世代が集まるイベントに参加し、包括ブースを設けて包括支援センターの周知を行った。やはり親子連れが多くて包括支援センターがあることを知らない方や、3世代で同居しているのでこういう相談先があることを知ってよかったと実際に言っていたのはよかった。

あとは10月と、12月の道草市では結構リピーターの親子連れの方が多く、みまもりあいアプリを使ったかくれんぼを行った。かくれんぼで子供たちが割と私のことを覚えてくれて、また参加したいという声があった。もう既にアプリを入れている高齢者の息子や娘世代の方もアプリの存在を知ってくれており、周知活動も続けていくと登録が増えていくのだなと実感した。あとはイベントの日程が近くなったときに道草市のチラシを地域の活動グループに持参したので、割と地域住民の方々も来てくれたので、地域の高齢者の方にも周知ができたと感じた。本当に一步一步ではあるがこういうイベントがあるのはいいという声は毎回聞くので、こういったことを続けていきたい。

2つ目は既存のグループへの運営支援と情報提供について、まず私の顔も覚えてほしいので、市の地域リハビリテーション活動事業を活用しながら、既にあるグループへの運営支援や、小金井警察署のふれあいポリスという方に協力いただきながら、地域のサロンへ出前講座を依頼するなどした。今は専ら特殊詐欺被害防止と強盗対策という内容で、本当に身近な話題なのですごく喜んでいて。あとふれあいポリスの人柄も相まって、引き続き来年以降も定期的に来てほしいという要望があり、紹介してよかった。

12月には小金井消防署から火災が増えているということでパンフレットを多めにいただき、さくら体操のグループや地域の体操グループに持っていった。こういった情報は個人で取りに行くのが難しいので、配ってくれるとうれしいという声も多く、このパンフレットを見て火災報知機を新しく設置した方もいたので、こういった情報は大事だなと感じた。

あと、今年度本格的に立ち上がった天神ボッチャの会は参加者同士で見守り合いや声かけが行われており、すごく住民主体の会になっている。参加者をもう少し増やしたいという希望があれば皆で話し合うということで、参加者から意見を出し包括はみんなと一緒に意見を出す一参加者の立場になりつつある。

この大きな2つの活動によって、イベント情報だけではなく防災に対する情報提供や、既存のグループの運営支援を行う中で、グループの参加者や地域住民の方々から心配な方に関する情報提供を包括にいただくことが最近ちょくちょくある。そういうことがあると地域包括の周知や、既存のグループへ顔を見せることで情報提供をしてもらえつながりを持つことができていると感じた。包括ニュースは年4回の発行になったが、LINEやインターネットのホームページを活用して、色々な方の目に触れるようにしようと考えている。

(高良委員長)

何か質問や意見等があればお願いしたい。

よろしいか。包括の認知度が低いという1つの課題に対してしっかり継続してやっていると感じた。1つ質問だが、アプリというのは道草市のためのアプリなのか。

(河合委員)

いえ、市の認知症事業で行方不明者を探せるみもりあいアプリというもので、それを道草市でかくれんぼという形で人探しをするもの、いざという時に使えるように慣れておくために実施している。

(高良委員長)

実際に使ってみないといざというときに活用することができないと考えて、周知プラス実際に活用できる状況をつくって、いろいろな機会を活用していると思う。

では、続いてひがしの金子委員、お願いしたい。

(金子委員)

まず市主催の短期集中サービスの地域ケア会議において、個人の課題から地域課題を抽出し、地域資源の開発を行った。本人が活躍したいが、参加できる資源が地域に不足していたことから、個人とのヒアリングを重ね、自主グループの立ち上げ支援を行った。本人が希望する形と地域のニーズのすり合わせや、グループメンバーを集める段階から始めて、何度も顔合わせや打合せを行い、1月24日無事に第1回目を開催することができた。既に地域活動をしている方や活動に意欲的な方が参加されたこともあり、実現することができたと思う。また初日が近づくにつれ、リーダーとなる本人の生き生きとした様子や、表情が印象的で、当日は担当のケアマネジャーも応援に駆けつけてくれて、楽しそうな本人の様子に感激していた。参加者の方からも好評を得て、今後も1回1回振り返りを行いながら、皆さんが楽しめる会をつくり上げていきたい。

またそのほか他課との連携として、小金井みんなの公園プロジェクト栗山公園居心地会議 play hereに参加した。インクルーシブ公園の実現により、あらゆる子供や保護者同士の相互理解の促進を図り、共生社会の実現に寄与することを目指したイベントで、障害児の保護者や特別支援学級のPTA会長、障害児による喫茶団体やリハビリ専門学校の先生と生徒、嚥下食を移動販売車する商店会の方が参加するイベントであった。企画の段階から主に障害分野の活動支援と思っていたが、これまでの関わりから包括の参加の推薦いただいた経緯から、地域とのネットワークや関係構築の大切さを痛感した事案でもあった。実際に当日は高齢者の方の来場はやはり少数ではあったが、地域共生社会に向けて分野横断した取組が必要となることを直に学べた。当法人の理解・協力も得られ、当日はつきみの園からスタッフが参加し、地域とのつながりを持てたことも重要な役割を果たすことができたと思っている。

その他これまでの地域活動支援を継続してきた中で、団体から地域住民との企画相談を受けて、保育園児とのボッチャ体験交流会の橋渡しを行った。その団体からは多様なイベント参加によって、その後に新たな団体や、関係機関ともつながりを持ち活動拡大が図れたという報告もいただいている。また地域へ出て様々な地域住民や関係機関の方々との出会いが近

年増えており、多業種であり他分野の方も多いが、すばらしい力を持たれた方が地域にたくさんいることを実感している。今後このような方々と地域住民の方々がいかにして関係性を構築し、一緒に課題を解決していける地域づくりを行えるか模索して実践していきたい。

(高良委員長)

何か質問や意見等があればお願いしたい。

(磯端高齢福祉担当課長)

先ほどインクルーシブ公園の実現を目指したイベントでみんなの応援プロジェクトという話があったが、これは定期的に今後開催する予定なのか。

(金子委員)

環境政策課からの声かけで参加させていただいた、12月1日に1回目を開催して、その後振り返りの反省会を行った。その後3月にもう一度今後の方向性を話し合う場を設けていく予定だと伺っている。今後に定期開催となるかは不明だが、恐らく1回で終わってしまったらもったいないという声があったと思う。当日かなり盛況で来場者が来たので、続けていく方向で考えてくれていると思う。

(磯端高齢福祉担当課長)

承知した。

(高良委員長)

これはひがしの地区に限ったことなのか。

(金子委員)

今回会場となった場所が栗山公園で、ひがし圏域であった。その他2か所の公園で、内容の変更があるようだが、公園はピックアップされているようなので、他の公園の2か所で今後順次動いていくと伺っている。

(高良委員長)

そうすると他の公園がある圏域の包括にも同じように声かけがあるのか。

(松村委員)

みんなの公園プロジェクトのことは詳しくは存じ上げていないが、きた圏域では梶野公園がこのプロジェクトに参加している。梶野公園を常日頃から利用されている色々な団体、たとえばターゲットバードゴルフ、子育て支援、花壇ボランティア、ゲートボールなど、そうした団体の参加者が集まって梶野公園サポーター会議が構成されて長らく活動している。包括はこの会議に必要なに応じて参加しており、主に秋の防災イベントや春の減災イベントの運営に協力している。今回のインクルーシブ公園の計画は東京都の予算らしいが、梶野公園サポーター会議では、梶野公園にはインクルーシブ遊具は不要という結論に至ったと聞いた。その予算を活用して駅に近い側に出入口を新たに作り、さらにベンチの増設、車椅子の方も座ったまま作業できる花壇や、プランターを設置して、よりインクルーシブな活動ができるよう目指しているそうだ。栗山公園のようなイベントの企画の話は特にないようだ。

(高良委員長)

別にイベントをしなければいけないわけではないので、本当にユニバーサルデザインで誰もが活用しやすい場所を作っていくことで、障害に限らず色々なところと連携しながら地域住民の方が中心となって、その方たちの意見と乖離しないように活用されるのはとてもいいことだと思う。

先ほど言っていた自主グループの立ち上げ支援については、やはり非常に重要な地域包括支援センターの役目というか、役割だと思うのだが、主催者のケアマネジャーが参加されたと言っていたが、この方は要支援、要介護の方か。

(金子委員)

この方は要支援の方で、ケアマネジャーは同じひがし包括の職員だったので、連携し易かった。

(高良委員長)

もしかしたら要介護の方かなと思った。要介護の方でも何かの活動をやるとなると、それまたすばらしいし、でも一方ではどこまでどうやってサポートするのが難しいという印象を持った。

まさに個別の課題から地域課題を把握して対応している実践がすばらしいと思う。

それでは、最後になるが、にしの久野委員からお願いしたい。

(久野委員)

主に2つのことに取り組んだ。

1つは、包括支援センターで関わっている要支援の方に地域活動に協力していただくことを考えて、生活支援コーディネーターのみならず認知症推進員や社協の地域福祉コーディネーターなどの協力をいただきながら実施した。

1つは要支援1の男性の方がカントリーミュージックに関してはセミプロだと本人が豪語していたので、圏域の認知症カフェでそれを披露していただけないかとお願いした。本人もすごく楽しみに色々準備していたし、私も施設とやり取りをしていたが、実際実施日の2週間前にその方が緊急入院してしまい、チラシ等はもう配布済みだったので辞めることができず、急遽地域福祉コーディネーターに協力いただいて、ギター弾き語りのボランティアの方を紹介していただき、認知症カフェでとても盛り上がった。

もう一つの事例は、同じく要支援1の女性の方でピアノをずっとつい最近までお子さんに教えていた方が、要支援1ではあるが特にサービス等を何も使わず、市のC型モデル事業を卒業されて、少し地域に貢献してほしいという話をしたところ快く受けてくれて認知症カフェでピアノ演奏してくれた。まだ今も続けて地域に出て活動している。

もう一つは、サロン立ち上げ支援について。うちの圏域で全然サロンの立ち上げができていなかった地域があったので、高齢者の孤立を防ぐ取組の一環で居場所づくりということで地域の方に声かけをしたら、4名の方が協力していただきうち1人は男性だった。場所はその地域にある集会所を借りていただき、そこで活動していく前にまずはさくら体操をサロンとして運営したほうが良いという話になり、その4名の方々には市の介護予防ボランティア養成講座を受講してもらい皆様無事に卒業した。その方たちを中心に先日サロンを開催したが、それまでには地域の方たちに圏域内の掲示板へチラシを貼ってもらうことや、2つ町会の町会長のところへ私も一緒に挨拶に行って、チラシを回覧板に入れてもらえるようお願いして周知もした。まずはさくら体操をやるのだが、プラスアルファのところは参加者の方たちで内容を吟味していただく形で進めていくつもりでいる。つい先日1月24日は初回だったが、私たちも入れて合計で約20名の参加があり、かなり地域に必要なサロンというか、必要な課題だったのかなと実感した。こちらがもう少し軌道に乗ってくるといいと思う。地域の中の徒歩圏内で出て行けるようなサロンがまだまだ少ないので、今後の課題かなと感じている。

(高良委員長)

質問や意見等があればお願いしたい。また、補足等もあればお願いしたい。

よろしいか。

徒歩圏とおっしゃっていたが、高齢の方にとって自転車を使って行ける場所、身近に行ける場所があるのはすごく重要なことだと思う。そういった意味でどんどんと居場所を作っていく、かつそれが色々な方たちの活躍できる場を意識してやられているのはいいところだと思う。

もう一点、既存のボランティア養成講座を活用しながら進めていくことも必要なことだと思うので、そういったこともしっかりしていると思う。

どちらの報告を聞いていても、本当に高齢分野の中での社会資源をしっかりと作っていきながら地域づくりを進めていると同時に、その先を見越して、別に高齢に限らず色々な分野をまだいで本当の意味での地域を見て活動していることがよく分かった。

報告事項についてはこれで全てになるが、ここまでのところで質問等があればお願いしたい。

(2) 検討事項

高齢者の社会参加促進に向けた取り組みについて

(高良委員長)

今日の検討事項に移っていきたい。

これまでのところ男性高齢者の社会参加について検討を進めていき、その後、男性に限らず高齢者の社会参加をどのように促していくのかということの1つとして、今回提案いただいている地域デビューガイドの案を作成して、また今度の協議体で検討しようということになったと思う。これについて事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

前回の協議体のあとに地域デビューガイド作成に関係すると思われる関係部署と調整して、課題共有会議を行った旨を報告した。その課題共有会議では地域デビューガイドを作成するに至った経緯や地域課題について共有する場に重点を置き開催した。その後に各課で高齢者が関われそうな事業や活動について情報共有を行った。

また、地域ガイドデビュー案のA3サイズの資料を基に見方や内容について説明した。他の課とも連携しつつ、シニアの人が集まる場などに積極的に出向き、説明しながら活用していくことが必要だと思っている。

このたびは内容や活用についての意見をいただきたい。

(高良委員長)

まずは高齢者の社会参加に向けた課題共有会議を市の中で、ここに書いているような環境政策課とかごみ対策課とか、いわゆる高齢者とは直接は関係ないと思われる課とともに話合いができたのは、非常に大きな意義があると思う。正直、色々な市区町村のお話を伺っても、重層に関しても縦割りの関係はそう簡単には崩れず、庁内連携はどこも一番の課題になっている。そういう中でこういった具体的な困りごとや地域課題を1つの問題として共通認識を持ちながら話合いをすることを繰り返していかないと、なかなか庁内連携はできないと思うので、そういった意味では1つの手がかりとして大きな意味があったと思う。

そういう中、第1層生活支援コーディネーターの感想だという、高齢者への偏見については多分どこにもあるのではないかなと思う。ましてこれから介護が必要な人にこんなものが要るのかという感じになる気はする。高齢者へのイメージを変える1つの契機になると思うので、そういった意味で介護福祉課としてどんどん発信していく必要もあるし、包括としても対象者は65歳以上が主になると思うが、そうではなく65歳前の方から色々な相談があればアウトリーチ的な部分も含めてやっていく必要性があると思う。

まず課題共有会議について何か質問や意見があればお願いしたい。

(鈴木委員)

皆さん外に出たいとか、外に出るところはないかと考える方は多いと思うので、とてもいいと思った。

内容について、資料４の「②地域とゆるくつながりたい」にある地域の居場所というのは各地域にあるサロンのことか。

(高良委員長)

多分「地域とゆるやかにつながりたい」といったときに対象となるのはサロンだけとは限らない気がする。なのでここに色々な活動が入っているが、特に町会や自治会になると多分サロンとはまた別だと思うが、何らかの形でつながりを持ちたい、関係を持ちたいような場合にはこういうところもあるという例示として挙げたのだと思う。何か分かりづらいか。

(鈴木委員)

ぱっと見てどこだろうと思う方が多いと思う。

(高良委員長)

それは具体的に今、事務局から説明いただいたように、この内容で「②地域とゆるくつながりたい」ときにこのような場所があるということだが、この例示されている項目が地域とつながるというのはどうして、どういう意味かという疑問を持ったということか。

ぜひ自分で使ってみるつもりで見ていただき、ここはちょっと分かりづらいとか、何かぴんときないなどの意見をいただきたい。そういう感覚がとても重要だと思うので、鈴木委員には具体的なところを伺いたい。

(鈴木委員)

赤十字奉仕団に参加できる年齢は大体７０歳以内か、こういう団体は参加できる年齢があったと思ったが。

(高良委員長)

ボランティア活動の赤十字奉仕団について、社協の方はお分かりになるか。

(田部井委員)

調べてみる。

(鈴木委員)

年齢制限について。

(高良委員長)

確かに。参加しようと思えば連絡してみたら制限等があり参加できないのは嫌だし、そういうことはあるかもしれないので、そういったことを書いてもいいかもしれない。

(事務局)

課題共有会議に赤十字奉仕団を担当している地域福祉課の方もいらして、結構参加者の年齢層が高いと言っていた。多分７０代に限らず参加できるようなので、今回載せる予定でいる。

(高良委員長)

もしも何歳までとかいう限定が入るものがあったら、それは記載したほうがいいことになる。他にいかがか。

各包括の方々と一緒に検討していると思うが。初めて見られる方、社協の方もこれを初めて見られると、これはどういう意味なのかとか、ここはこうしたほうがいいのかという意見があると思うかが、いかがか。

では村越委員どうぞ。

(村越委員)

見た感じはとてもいいと思う。若い人でも決めたことをやり続けるのは大変なことだし、まして新しいことに挑戦するのは勇気が要るというか緊張する。家の中にずっといる人もちょっとは変わらなければと思っているところもあるのではないかと思う。だからそういう人にちょっと刺激を与えられれば、やる気が出て何か興味があることをやってみたときに達成

感を感じられると続けられる気がする。ここでこうやって話し合っていることが地域の方に行き届いて、みんなが楽しく過ごせたらいいと思う。

(高良委員長)

鈴木委員も濱名委員も村越委員も、例えばこれを見たときに、スマホでQRコードを読んで活動内容を見ようという感じになるか。これだったらおもしろそうとか、ちょっと見ようかなと、抵抗なくすぐ見ることはできそうか。

(濱名委員)

地域の居場所はどこかなと思ったときに、QRコードがあると見やすいと思う。いちいち文字を読むのは大変なので、これ以外の概要一覧的なものを読むことになる、え、これを読むのかと思ってしまう。先ほど言っていたように、プレシニアの方だとなおさらそうだと思う。文字を読むのは面倒だが、検索してちょっと確認するのは抵抗がないと思う。

(高良委員長)

この四角のところにQRコードが全部入っていくイメージになるので、それを読んで情報を得ることになる。

社協の方々いかがか。内容的な部分も含めて、特にボランティア活動とかこの辺もプロだと思うので、これよりもこっちを入れたほうがいいのか、これはもっと入れたほうがいいのかいろいろ意見があると思うので、お願いしたい。

(田部井委員)

基本的なことで伺いたかったのは、「③地域の役に立ちたい」の左側の列でサブスタッフ養成講座、介護福祉課包括支援係という箇所があるが、これは例えばどんな内容なのか。

(事務局)

サブスタッフ養成講座は地域の介護事業所のディサービスで職員の支援を受けながら介護サービスの一部を担うスタッフを養成する講座だ。講座では地域の介護事業所で利用者の見守りや傾聴、レクリエーション活動などの補助を行う実習と、認知機能とか身体機能についての知識を習得するもので、全体を2か月ちょっとかけて勉強する。QRコードを読み込むとこの講座案内のホームページにとぶ。

また、このサブスタッフ養成講座を修了した暁には、実習した介護事業所で職員の指示のもとサブスタッフとして有償ボランティアができる流れになる。また、一定期間のサブスタッフ活動を終えたあとは各地域の活動者として地域活動の推進者になっていただく。この講座を修了後には有償ボランティアができるので、通常のボランティア活動と異なり、最終的には有償ボランティアを卒業し地域の担い手になるため、「③地域の役に立ちたい」の中の「ボランティア」とは別のカテゴリーに入れている。

(高良委員長)

質問していただきありがたい。他は介護予防だったり、スマホだったり、認知症だったり、男性のための介護者だったり、名称でどのような活動かイメージが湧くが、サブスタッフ養成講座は、分からないので名称の下の部分に介護者養成とか介護事業所での活動ということが分かるように説明を入れていただくとイメージが付きやすいと思う。

鈴木委員どうぞ。

(鈴木委員)

無料入浴デーはアパートとかでお風呂のない方が無料でお風呂を頂けるサービスなのか。それとも、他の事業なのか。

(事務局)

多分鈴木委員が言っているのは無料入浴デーとは違って、市でお風呂の入浴券の配布する事業があるが、これとは他の事業だ。こちらの無料入浴デーは定期的にぬくい湯で小学生か

ら高齢者まで、どなたでもこの時間にどうぞという季節に応じた入浴が楽しめる事業で、ショウブ湯なども楽しめる。こちらはどなたが利用しても大丈夫なものになる。

(高良委員長)

では、続いて社協の方から引き続きお願いしたい。

(田部井委員)

1つだけ、「地域の担い手として活躍」というところで、就労という活躍先としてシルバー人材センターを入れてはどうかと思った。シルバー人材センターでの活動はほとんどがボランティアだが、そういったところでも掲載していいと思った。

あと、チラシのどこかにQRコードを読み込む方法の案内があってもいいと思う。若い方なら分かるかもしれないが、「ここをチェックしてみよう」というような、何かそういう案内があってもいいと思う。

(高良委員長)

では、まずは「地域の担い手として活躍」のところにシルバー人材センターが入っていないということだが、これはあえて入れていないのか。

(事務局)

あえて外した。「地域の担い手として活動」というところで、シルバー人材センターはボランティア活動もいっぱいしているが、そこまでの情報を私たちが詳しく分からなかったことと、どうしてもシルバー人材センターは就労というイメージがある。社会参加、セカンドライフ、地域デビューということでシルバー人材センターもありだとは思ったが、入れなかった。入れた方がよいなどの意見があれば、入れる方向で考える。

(高良委員長)

これについてどうか、包括も含めて意見をいただきたい。「地域の担い手として活躍」の1つの情報源としてシルバー人材センターを追加した方がよいか。最初に言っていた社協の方はいかがか。

(田部井委員)

今、仕事をしたいという相談は結構ある、少しでもとか、何か役に立ちたいという思いもあると思う。

(高良委員長)

やはりちょっとでも金銭的にもというのはいりえる。今需要は非常に増えている気がする。だからボランティアでも有償ボランティアを好んで選ぶ傾向もないわけではない。でも、それが別に地域の担い手になっていないかということ、そんなことはない気がする。でも、一方で、就職先とか仕事みたいな話になってくると、これ以外にも民間の仕事を含めてもっといっぱいあるので、どこまで入れるのかという議論は確かにあると思う。ただ、シルバー人材センターでの活動は、民間のバイトや仕事とはまた一線を画すという気がするので、入れたほうがいいのか。いかがか。

(金子委員)

シルバー人材センターの会員も減少傾向にあるという声は聞いている。常々相談の中で、介護保険で対応できない部分はやはりシルバー人材センターに頼んでいることもあるので、選択肢の1つにシルバー人材センターを考えていただくのは私としてはすごくありがたい。シルバー人材センターにも頑張っていたいただきたいので、この中に持ってくるのもいいと思ったし、ファミリー・サポート・センターも種類としては類似していると思うので、リストの中に載ってきても違和感はない。

(高良委員長)

確かに今、シルバー人材センターに入ってくれる方がすごく減っているという話がある。

そういう意味でもここに載せても、ちょうどスペース的に入りそうだし。

そういうことで考えると、松村委員いかがか。

(松村委員)

金子委員と全く同意見で、かねてよりこの協議体で申し上げているが、やはり人生100年になってできるだけ長く収入を得ることがシニアもこれからセカンドライフプランを考える上で大事なことなので、シニアの場合は地域活動に就労が入っても全然おかしくないと思うし、またシニア世代の地域参加講座にいつもシルバー人材センターの方が講師として話をしたり、会員募集をしたりしているので、そういう意味からもシルバー人材センターはあったほうがよいと思う。

(高良委員長)

それでは、「地域の担い手として活躍」のところの一番下なのか、ファミリー・サポート・センターの上なのか、この辺にシルバー人材センターを加えていただきたい。

他に意見はないか。実際に見てよく分からないところも含めて。

あと先ほど言っていたように、スマホでQRコードを読み取るというのは、これからの高齢者の方々、特にプレの方々が対象ということになると、実際やり方が分からない方ばかりではないと思うが、説明があっても問題はないと思う。そうすると全部開いたところにまだスペースはあるので、読み取り方の説明を入れると、やり方が分からない人たちにしてみれば、ちゃんと活動内容や必要な情報に到達できると思うので、説明を入れるのはいいと思う。では、絵のところにQRコードの読み方を入れていただきたい。

他に、鈴木委員いかがか、見ていただき分からないところとかあるか。大丈夫そうか。

村越委員、いかがか。

(村越委員)

見ていて分からないのなら分からないで、何だろうと思って検索するということもあるので、それはそれで全てが分かる必要はないと思う。

(高良委員長)

確かに。ちょっと見て何だろうと思えばQRコードを読んでみようという動機づけにもなる。では、内容についてこのような感じでよろしいか。実際の地域デビューガイドはカラーでもっと分かりやすくなっていると思うので、より一段と手に取ろうという気持ちになると思う。

また、最初のところで事務局から話があったが、地域デビューガイドの表紙のメッセージについてはいかがか。意見があればお願いしたい。

よろしいか。自分が地域デビューガイドを手にとって読んでみようとしたらどう思うか。

つつい教師としての気持ちで読んでしまうと、「地域のことどのくらいご存じですか」の「地域のこと」なら「、」を入れるか、「地域のことをどのくらいご存じですか」という「を」を入れるかという部分について、気になってしまう。ここはあえて口語的に表現したいということか。ここは案外難しい。大したことではないのだが。

よろしいか。

(事務局)

さらに1つ意見を伺いたいことがある。介護福祉課からのメッセージとなると、どうしても社会参加、地域参加することが介護予防につながりますとか、健康寿命とは、そういうメッセージを伝えたくなくなってしまう。社会参加することで元気でいられるというメッセージは、ここではあえて伏せた意図がある。若い人たちがこれを手取るに当たって、それを伏せたほうが、正しいのかどうか。または、入れたほうがいいのかという部分について意見を基に検討できればと思っている。

(高良委員長)

でも、ここに「いつまでも元気で過ごすために」と書いてある。それは多分年齢を問わず元気で過ごしたくない人はいないと思う。介護予防とか、介護とかを含めて書きたいという意向が介護福祉課であるならば仕方がないと思うが、そうではないというスタンスで検討しても大丈夫か。

(事務局)

大丈夫だが、どうだろうか。

(高良委員長)

それなら、今の点についていかがか。別に介護がどうか、介護予防とか、あえて書かなくていいと思う。対象自体がもっと若い方で、ある意味退職してすぐの方が対象の中心になるわけなので。

では、内容についてはこのような形で進めていただいてよろしいか。

(事務局)

さらに、内容についてもう一つ伺いたい、地域デビューガイドの表というか、外側の活動希望チェックとして内容が①から⑤まであり、その下に時期、頻度でチェックをしていただく欄がある。次に、この裏面をみると各活動には時期や頻度の表記がない。時期や頻度のチェック項目があるのに実際の活動先の開催時期や頻度の表示がないことについてどう思うか、そこら辺に関して感想があれば教えていただきたい。

(高良委員長)

いかがか。各事業のQRコードを読み込めば、どのくらいの頻度でやっているとかは分かってくると思う。ただ、活動时期的なこととして自分の理想上げて、以前にも話をしたと思うが、内容、時期、頻度を入力すると、合致するものが出るのが理想的で、本当はそのアプリが欲しい。だけれどもそれはできないと考えると、この項目を入れることがどこまで意味があるのかを含めて意見をいただきたい。

久野委員いかがか。

(久野委員)

私は時期や頻度をここに記載しても、どこまで反映できるのかなと思うと、特になくてもよいと個人的に思う。

(高良委員長)

確かに内容を選らんで、次に時期や頻度を書いたからといって、それを裏面の各事業内容を見ても分からないので、何でわざわざ書くのだろうという印象を持つ方もいると思う。ただ、一方で自身が今すぐやりたいことや、毎日やりたことを書いておくことによって、それぞれの事業のQRコードを見たときに、ぴったり合っているものを探す判断材料にもなり、自身の気持ちを整理するための要素や、それを自身の気持ちを認識できる状況にもなる。

これを議論するのは難しいので、多数決をとる。

では、時期と頻度のうち、時期について載せたほうがいいのかと思う方と、いや、もうこれは別になくてもいいという方と今から聞くので、手挙げしていただきたい。ちょっと考えていただいた後、頻度について同じように伺う。

よろしいか。ではお伺いする。時期については入れなくでもいいと思う方、手を挙げてほしい。時期は外すことにしよう。

では次に、頻度についてはいかがか。頻度は残しておく方が良いか。頻度については見ていったときに、毎日やりたいがこれは月に1回くらいしかやらないのかと判断はできるかもしれない。では、時期は掲載しないということではいかがか。

どうぞ、濱名委員、お願いします。

(濱名委員)

頻度について、ここにはきっちり毎日、週2・3日、週1回、月1回となっているが、もっとばらばらな計画を考える人もいると思う。空いているときにやりたいとか、そういう選択肢ものがあったもいいと思う。

(高良委員長)

そうだと思う。かつ活動によっても異なり多分これは週に1回だけでも、これは月に1回だとなってくる。そうなってくると選択肢をつくるのが非常に難しいので、もう外してしまったほうが混乱しないかもしれない。

(濱名委員)

頻度について、この地域ガイドデビューの中で月1回と決めてどれかを選んでみたら、月1回ではなかったのをやめてしまうとか、別にここに書いたものを絶対に当てはめなくてもいいとは思いますが、例えばさくら体操は月2回開催しているところや毎週開催しているところと色々あるので、月1回しか開催していないからここはやめておこうとなってしまう。ここに頻度を書いてしまうと、それが本人の縛りになってしまうのではないかと思った。

(高良委員長)

確かにそれはある。特に非常に几帳面な方は自身で書いたものに条件が合わないと、この活動は駄目だと考えてしまう可能性もないわけではない。

では、今回はとにかくここでは何をしたいのかを選ぶことで、この番号を基に裏面で活動内容を確認するという連動を重視し、この時期と頻度については外しておくことということでよろしいか。では、そのようにさせていただく。

では、続いてこの活用方法についての意見があればお願いしたい。

まずは事務局では基本的にどのくらいの枚数を準備して、どのように活用する予定であるかについて説明いただきたい。

(事務局)

地域デビューガイドは令和7年度予算で作成する予定で、作成予定枚数は約2,000枚を考えている。

また、地域デビューガイドの作成に関わった各部署で啓発の協力を得られる部署もあると思う。その部署との連携を図る際にカラー印刷したものを主に使っていきたい、あとは地域包括支援センターへデータを送って、相談や啓発の機会があれば各包括で印刷して活用いただきたいと考えている。なので本日の協議体で実際に検討いただく場合は、2,000枚のカラー印刷で出来たものを使い、どう活用したら有効なのかについて意見をいただきたい。

(高良委員長)

ということは、PDFのデータに関しては小金井市のホームページでもダウンロードできるようにするのか。

(事務局)

今、高良委員長がおっしゃっていただいたとおり、このパンフレットはカラーのPDFでホームページに掲載していきたいと考えている。

(高良委員長)

紙ベースのものがそれほどないわけだが、2,000枚といってもほかの課にも配ることになるので、実際に活用できる枚数は何百ずつくらいだと考える。どちらかというとPDFで配布していくという形になる可能性が高い、どのような活用ができるのか意見をいただきたい。できる限りイベント等で配布する、知り合いの方々に配ってもらうような形になるわけだが、例えば地域の活動について、濱名委員に伺いたい、紙ベースの案内がない状態で他の知り合いの方や地域の方達に、こういうものができたらいいと周知するのは難しいか。

(濱名委員)

地域デビューガイドというものがあって、ホームページを見れば案内をダウンロードできるよと言って話をしたとしても、なかなかそこまでたどり着く人はいないかもしれない。

(高良委員長)

そこはちょっと課題かなという気がする。

(河合委員)

これについては包括内でも意見を出し合ったのだが、例えば紙ベースでは難しくても、65歳になれば介護保険証が配られるので、今思いついたのが、地域デビューガイドのデータをQRコードにして、案内の一部分に入れて介護保険証の案内を見た方の目にとまるようにするのもいいのかなと感じた。

(高良委員長)

できる限り全ての方々に手にとっていただけるような機会をつくるのが一番いいことだと思う。おっしゃっていただいたように、行政から送るものの中に一緒に入れてもらうことをベースとしていいと思う。その場合は紙として一緒に入れると思うが、例えばカラーコピーとして介護福祉課でいっぱい印刷して入れることも予算上厳しそうか。まずカラーコピーができるのか。

(事務局)

印刷業者に頼む以外に独自に介護福祉課で作成すると、色紙に黒字で印刷するイメージになる。カラーコピー機についてなかなか難しい、今、資料としてお配りした資料のイメージで色紙に印刷して送ることになると思う。

(高良委員長)

でも、そういうものでもプラスPDFはここだという案内を入れたほうがいいと思う。PDFはここからダウンロードできますというものを一緒に入れると、カラーのPDFを見ようという方もいるかもしれない。多分それが一番全部にあたれると思う。

他に何か活用方法はあるか。もしくは要望があればお願いしたい。よろしいか。

(藤原委員)

印刷枚数の2,000枚とまず数字が決定されているが、それは何か計算して大体2,000かなということで決められたのか。それとも予算的なものなのか。

(事務局)

この枚数は予算的に2,000枚が限度だろうという部分だけで、他に根拠はない。

(高良委員長)

できればもっとたくさん作って、色々なところで配布する方が一番いいが、やはりなかなか予算の確保が難しいと思う。きれいに印刷されたカラーのものは一番有効な活用ができるようにし、あとはPDFを見ていただくように誘導していく、そのために先ほど言っていた色紙に黒で印刷した簡易版の地域デビューガイドを配布する形を取るしかない。

よろしいか。他に何か意見があればお願いしたい。

(鈴木委員)

民生委員としては75歳訪問でこれを配付したいのだが、ただ75歳なのでちょっと年齢的に該当しないかもしれない、健康を保ちたいという方が多ければ大丈夫かなとも思う。

(高良委員長)

確かにそうだ。でも、例えば民生委員の集まり等でこういうものができたという報告をされることになると思う。その際にこれを印刷してほしいという希望があれば、必要枚数を印刷して配る形の対応は幾らでもできると思う。ただ、先ほどの話にもあったように、カラー版のものは予算的に限りがあるので、簡易版の白黒印刷したものを何部ほしいと要望してい

ただければ対応できると思う。

よろしいか。では地域デビューガイドについて、全体を通して何か意見や質問があればお願いしたい。よろしいか。

では、今後の予定としてこの地域デビューガイドは今日いただいた質問や意見等を基に修正いただき、もう一回完成できたものを見せていただけるのか。

(事務局)

実際に完成した内容は次回協議体で報告させていただきたいと考えている。

(高良委員長)

その前にもまた課題共有会議が開かれる可能性があると思うが、いかがか。

(事務局)

地域デビューガイドについては、今回協議体で各委員からいただいた意見をももとに作成し、その後、3月にまた庁内で関係部署と集まり、啓発について具体的に関係部署との協力について検討していく予定。また4月以降にそれを具体的に進めていく方向でいる。

(高良委員長)

そうしたら、課題共有会議が開催されて、完璧に地域デビューガイドがフィックスされて、その内容が皆様方に周知いただけるという理解でよろしいか。

(事務局)

はい。

(高良委員長)

それでは、あと15分ほどしかないが、今年度は冒頭でも話したように、高齢男性の社会参加をどう進めていくのか、促していくのかについて検討いただき、男性の高齢者に限らず、様々な高齢の方々が主体的にこの地域で活動できるような、つながりを作るきっかけの1つの成果物として地域デビューガイドができ上がったということになる。

この活動については、先ほど皆様方からいただいた意見を基にしっかりと活用していくことが来年度の1つのやるべきことなのだと思うが、併せて地域課題は幾らでもあるわけなので、来年度に向けて地域課題を把握していきながら、この協議体で課題への対応を検討していきたいと考える。ついては実際にその課題を合意形成し、検討していくのは来年度の協議体になるのだが、今日この15分ほどを使って皆様方が活動されている中で、実はこれがすごく困っているとか、こういうことに関して今後検討していく必要があるとか、そういう日頃の活動や実践の中から感じているものに関して意見出しをしていただき、ざっくばらんに、困っていることをどんどん出していきたい。またそれを基に来年度の地域課題として1つ決めながら検討を進めていきたいと考えているがいかがか。日頃の活動や実践の中でこれをぜひ検討していく必要があると感じることがあれば、どなたからでも結構なので話していきたい。

(鈴木委員)

認知症の方が多くて、認知症で独り暮らしの方は訪問しても向こうが分からないということがある。だからドアが開いているかとか、そういう確認をするだけになっているのだが、そういう方にはどういう対応がいいのか伺いたい。介護福祉士のように定期的に関われば相手の変化が大体分かると思うが、それ以外だとなかなか変化が分からないのでどうしようかと思う。そこをちょっと勉強したい。

(高良委員長)

ますます独り暮らしの方が増えている状況で、いかに見守りしていくのかについて、特に認知症の方への見守りは大変だと思う。他にいかがか。

村越委員いかがか。

(村越委員)

私は今、町会長をやっているが、町会長といっても事務的なことしかしておらず、町会費も集めていないし何もやっていない。コロナ禍以降縮小する感じで、班ごと抜けてしまう方もいて、町会員がだんだん減っている。私の考えとしても、結局今ある予算を使い切ったら、もうやめてもいいと思っている。でも、その辞めるときにはどのようにして終わりを迎えられるのかかわからない。色々な会で、発足はするけれども何十年も続いているものなので、会を閉めるというのは結構大変だと思う。ただ、今としては回覧だけやっている状態なので、私が元気なうちであればそれくらいはやるのだが、最後をどう迎えられるのか悩んでいる。

この会議で新しい人に社会参加していただくためにはどうしたらいいかということ話を合っていてそれも大事だと思うが、現在、活動している人たちに対してももっと援助してもいいのかなと思う。社会参加を促す側に紙代や何かと費用多くかかっている、それなら今活動している人たちにももうちょっと支援や援助をしてもいいのかなと思う。そうするとその活動先からまた口コミなどで活動が広がったりすると思う。

(高良委員長)

町会の解散については村越委員のところだけの話ではなくなっている。

(村越委員)

もう辞めているところもたくさんある。でも、市では自治会・町会を増やしましょうと色々周知しているが、実際に会を運営している側からすると、みんな無関心だしという感じだと思う。

(高良委員長)

これは難しいと思う。活動している方々の支援については、先ほどの報告にもあったように、包括が支援しているのだが、運営するための金銭的なものも含めてというところもあるのかもしれない。

濱名委員いかがか。

(濱名委員)

私はさくら体操のリーダーをやっているが、やはりリーダーが徐々に減っていて、初期の立ち上げたときのリーダーの方々がもう高齢になり辞めていってしまう。リーダーの補充として他の方に声をかけるが、できないという人が結構多いので、今回は少し増えたが、それでも月に4回行さくら体操のうち1回しか来られない感じだ。私もいつまでできるか分からないし、自主グループで活動しているほうの自分以外のリーダーの方は高齢でみんな辞めてしまったので、今、私1人でやっている。それこそ誰か地域デビューしてリーダーをやってくれないかなと期待している。でも多分自治会・町会もそうだし、子供会もそうで、皆役をやりたがらない傾向があるので、何かイベントをやると集まっても、そのイベントをやる側はなかなかいない。いつもどの会でも同じようなことになってしまうので、意識から改革しなければいけないのかなというのが悩みだ。先ほど話した自主グループのさくら体操は私がリーダーとして1人でやっているの、次のリーダーがいなくて終わってしまう会だなと思っている。自分が元気なうちはやるが周りの同い年の方に声掛けしても、やはり元気な人は忙し過ぎてできない、ではそうではない方に声掛けするが元気ではないのでできないと言う、そこが今すごく困っている。また次世代がいなくて、これは日本国が皆そうだと思う。企業もそうで次の世代がいなくてというのが今、本当に困っている。

(高良委員長)

おっしゃるように人材不足はどこも課題で、そういう中ではリーダー不足は本当に大きな課題だ。では、次に社協の藤原委員からお願いしたい。課題はあり過ぎか。

(田部井委員)

もしかしたら当てはまらないのかもしれないが、私たちの相談の中で多いのが、60代になって単身で、住まいや仕事を探す中で緊急の連絡先がないとか、保証人がいないといった悩みを持っている方がとても多い。

また、多分人口的に60代の方がとてもたくさんいるはずで、この定年を迎えた方たちが地域に出たい、地域につながれたらなと思っていて、そのきっかけをつくり新しいところに入っていただきたいと考えているのだが、それがなかなかできていないところが気になっている。若い方の不足、人数が足りない部分というか、人材不足のところを、この60代以降の方たちはものすごく力を持っていると思うので、そこを一緒にやれたらいいかなと思っています。

(高良委員長)

日頃から、社協の方や皆様、包括の方々も地域の中でどの方々が色々なストレングスを持っているかをアセスメントしながら支援していると思うが、先ほど濱名委員が言っていたように、活動リーダーとしてのマッチングが全部うまくいくかというと、なかなかそういうわけにもいかず、でも一方で今度は孤立している方がいるということが大きな課題のままだと思う。それでは、松村委員からお願いしたい。

(松村委員)

きた包括は今年防災に取り組む中で、町会の活動の情報も収集し、公式LINE等で提供し始めたところ。今の村越委員の話に衝撃を受けた。全てを把握しているわけではないが、きた圏域の中で比較的町会活動が熱心なところとして、本町二丁目、緑町第4町会、緑町第2町会、桜町、梶野町などがある。いずれも若い世代や地域の事業所の参加、協力があるように思う。

きた圏域でもリーダー不足は深刻なので、ないまぜの会や、みんなのささえ愛ネットワークで、事業所との連携ができないか、若い力を借りられないかということを目指して動いてきた経緯がある。本来ならサブスタッフ養成講座修了生がシニア層で地域活動の中心となり得る人材であるはずだが、なかなかそこは難しさを感じている。今年度は昨年より受講生が多かったが、最終的には地域へ出て自身で活動していただくための講座なのだと伝えたら、皆さん初耳だと言われた。残念ながら、地域活動に必要な人材を募集していることが伝わっていない。サブスタッフというネーミングにも問題があるのかもしれない。

その一方で、なかなか人の性格や個性は変わらないところがあり、リーダーになり得る方にはもともとそういう資質があり、サブが好きな方はサブが好きということがあるので、無理にお願いしても結局続かないことも多い。リーダー発掘とか育成をテーマにするのは難しく、それよりはもっと身近な、ちょっとした困りごとを整理していく中で課題を見つけていく方がいいと思う。

(高良委員長)

では、河合委員お願いしたい。

(河合委員)

みなみ圏域は坂下なのでどうしても移動手段としてバスが必要なのだが、歩行機を使って歩行はできても、歩行機が重くてバスには乗れないという声が割とある。あと買物にしてもスーパーやコンビニが点々とはあるが、そこまで歩くのが結構大変だという声がある。移動販売車も週に1回か2回で、それもなくそうだという話もあり、車の免許を返納したとしてもタクシーがなかなかつかまらないとか、坂下というところで移動手段の問題として最近はこの課題が多い。

(高良委員長)

では、金子委員お願いします。

(金子委員)

うちの圏域で日々業務している中の地域課題で包括職員から上がってきているのは、散歩に出た際に休む場所がないということ。お休みベンチ的なものがあるといいという声が出ている。健康維持のためにも、御自身の趣味活動においても、外出先でちょっと疲れたときに一息できる場所があるといいという意見が出た。ただ、設置場所についてはどこというところまでのニーズ把握ができていないので、そこまではいっていないが、そういったものがあるといいなという話と、バスルート改編に当たって、やはり交通的な課題が今後考えられる。市内の移動ボランティアとして有償で活動しているハンディサポートが活動を終了してしまうという情報が出てきている、ますます交通難民、移動に関しての相談が増えてきそうだと感じる。その辺りを協議体で皆さんと課題検討できると今後に備えられると思う。

(高良委員長)

では、久野委員お願いしたい。

(久野委員)

最近よく耳にするのが、ちょっとした繕い物やってくれる人がいるといいなという声がよくある。また、ハンディサポートという先ほどの移送支援の有償ボランティアの活動は今年度末、3月末でなくなってしまう代替のものが特にないので、使っていた方はどうしようかという話がある。先ほども言いつたが、徒歩圏内で出かけていけるような場所や、サロンが欲しいという声がある。

(高良委員長)

今、日頃の実践活動の中で感じている課題についてお話しいただいたので、これらも参考にしながらまた新たな地域課題について、来年度の第1回の協議体と一緒に検討していただければと思う。また、本日の話だけで検討することを決めるわけではないので安心いただきたい、次回第1回の協議体で検討ができればと考えている。

3 その他

次回協議体の開催予定

(高良委員長)

それでは、これで第3回生活支援事業協議体を終わりにしたい、次回協議体の開催についてお願いしたい。

事務局より委員の改選の案内及び次回の協議体について日程と場所等を説明

4 閉会